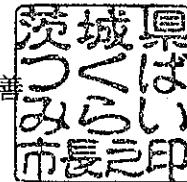




みらい都第 55号
平成19年 4月27日

国土交通省道路局長 殿

茨城県つくばみらい市長 飯島 善



中期的な計画の作成にあたっての意見について（報告）

平成19年4月2日付国道企第114号で求められた意見について、下記のとおりご報告いたします。

記

1. 今後の道路政策や道路の整備・管理に係る提言

- (1) 住民の要望を踏まえた今後の市のまちづくり計画を実施していくためには、道路整備は必要不可欠であることから、広域幹線道路網（市内、近隣市町村及び県内の国・県道）の整備や市内の生活関連道路整備に積極的に取り組んで頂きたい。あわせて、広域幹線道路と生活関連道路の連携（アクセス）において、慢性的な渋滞解消による環境への負担軽減に十分配慮した整備にも取り組んで頂きたい。
- (2) 道路整備については財政負担が伴うことから、自治体では道路整備に対する財源確保に苦慮しているところである。地方自治体の均衡ある発展や地域住民の安全や経済活動のためには、国において相当の道路整備のための負担をすることが望ましいと考えることから、道路特定財源の一般財源化などの動きはあるものの、地方自治体に対し国からの財源措置（補助採択の緩和、交付税措置等）をお願いしたい。
- (3) 上記を実現するために必要となる主な具体的施策を例示すると、次の5項目が掲げられる。
 - ア 交通が集中する高速道路IC付近の国道、県道の渋滞緩和対策
通過交通を円滑に処理するなど交差点の立体化を推進すると共に環境（騒音）にも配慮する。
 - イ つくばエクスプレスの地域拠点間を連絡する広域道路の整備促進
東京外郭環状道路（一般国道298号線）と一般国道354号線を結ぶ広域道路として期待されている都市軸道路の国道への格上げ整備。
 - ウ ETC等を活用した多様で弾力的な料金施策の実施
高速道路料金の割引等を行い、高速道路への誘導を進めている社会実験を大規模河川を通過する高速道路にも広げて、一般道における慢性的な渋滞を解消し、環境への負担軽減を図る等有効活用する。

エ 国道と国道とを結ぶ地方道路（県道）の整備促進

国道と国道を結ぶ主要な県道は、交差点の改良、歩道の整備などが立ち後れており、歩行者と車両が混在している状態を解消する。

オ 道路の補助制度の弾力的運用への支援

道路特定財源の見直し、地方交付税の削減などにより市の道路整備に充てる財源が不足していることから、市道の計画的な整備、保全が困難な状況であり、補助裏の交付税措置等の実施。

【 参考：市の道路整備の必要性 】

○住民の要望

新市建設計画策定に当たって実施した住民アンケート調査の結果を見ると、新市に期待する効果として「広域的な視点で道路や公共施設等を整備」が全体の43.7%と最も高かった。また、住民の不満となっている事項としても、「鉄道やバスなど交通機関」の項目が最も多かった。

さらに、「幹線道路や生活道路の整備」が新市に特に重点的に取り組んで欲しい施策・事業として上位にある。

いずれにしても住民としては道路整備に対する要望は強いものとなっている。

○まちづくり計画における道路整備計画

＜新市建設の基本方針＞

- ・茨城県の東京方面からの玄関口として、首都圏中央連絡自動車道や都市軸道路などの広域幹線道路整備を促進する。
- ・つくば市や千葉方面と連絡する主要地方道や新市として一体性を図るための道路整備、生活道路整備を進める。